

平成29年12月15日

非血縁者間
骨髄採取認定施設
採 取 責 任 医 師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

「骨髄採取マニュアル」採取担当医師の見地から 一部変更について（通知）

拝啓

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より骨髄バンク事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび別紙「骨髄採取マニュアル」採取担当医師の見地から(10)採取手技に關して一部変更しましたので、ご通知いたします。

なお、ご不明な点等ございましたら、当法人ドナーコーディネート部までご連絡いただければ幸いです。

敬具

本件に関する問い合わせ先

（公財）日本骨髄バンク

ドナーコーディネート部 担当：折原

TEL：03-5280-2200

FAX：03-5283-5629

「骨髓採取マニュアル」 採取担当医師の見地から(10)採取手技 一部変更について

現 行	変更後
【P8】（１０）採取手技	
上後腸骨棘を目標に垂直に穿刺する。 骨髓穿刺針を皮下組織に進め、骨膜に当たったところで、骨である手応えを確認し、骨髓穿刺針の頭を手掌にあて、力を加え錐もみしながら進めていく。	(変更無)
左手は皮膚がずれないように軽く固定しておく。最初は骨の表面で滑りやすいのでゆっくり進めていく。ある程度採取針が固定できれば力を加えて進めていく。その際、針がぶれないようにまっすぐに進める。また、採取針が深く入りすぎないように人差し指を伸ばして距離を測っておくと良い。 抵抗がなくなるかもしくは5mm～1cm程度挿入され、採取針が固定されていれば、内針を抜き、シリンジを固定して勢いよく陰圧をかけて単純吸引あるいはポンピングにより骨髓液を採取する。その際、シリンジが抜けないように固定しておく。	(変更無)
<u>【P9】一回の吸引は末梢血の混入を防ぐため、3～5mlの骨髓液を吸引する。</u> 採取後、再び内針を挿入し、採取針を錐もみさせながら5mm程度進め、さらに採取する。同一部位で2～3回採取した後、採取針を抜去し、ガーゼで圧迫する。骨髓液は、吸引後は体内に戻さないこと。 逆に最初に深く穿刺し、次に針を引いて吸引する方法もある。同じ皮膚の針穴より採取針を入れ、少し皮膚をずらすようにして新しい骨膜の部分を穿刺する。皮膚穿刺は一側の後腸骨稜で <u>3カ所程度とする。</u> 採取速度は500ml／30分以下とする。採取が始まれば、自己血の輸血を開始する。	<u>一回の吸引は過度な末梢血の混入を防ぐため、5～10mlの骨髓液を吸引する。</u> 採取後、再び内針を挿入し、採取針を錐もみさせながら5mm程度進め、さらに採取する。同一部位で2～3回採取した後、採取針を抜去し、ガーゼで圧迫する。骨髓液は、吸引後は体内に戻さないこと。 逆に最初に深く穿刺し、次に針を引いて吸引する方法もある。同じ皮膚の針穴より採取針を入れ、少し皮膚をずらすようにして新しい骨膜の部分を穿刺する。 <u>皮膚穿刺は一側の後腸骨稜で3カ所以下とする。</u> 採取速度は500ml／30分以下とする。採取が始まれば、自己血の輸血を開始する。